



女性技術者の紹介

私の技術者像とルーツ

株式会社ウエスコ／米子支店／技術部／上水道課

長戸 琴美



1. 女性の社会進出と私

女性技術者とはなんぞや、と度々考えることがあります。私は入社6年目で、上水道施設に係る設計等に携わっています。昨今、男女共同参画法や女性活躍推進法等、女性が社会進出し、そこで活躍することを求められる風潮が強まっています。そのことから会社内においても、女性社員が集まり自身のキャリアについて考え意見交換する場を設けてもらう機会があります。私自身、女性であることにより制限を受けたり等が今のところないため、女性であることやその立場からの意見を求められたとき、はて？と困ってしまうことが多いため、なかなか難しいお題だったりします。制限といったら女性用のスーツ売場が男性用の売場より狭かったときくらいでしょうか。実のところ私自身よりも周りの人間の方が私が女性であることを理解あるいは意識する方が多いのではないかとさえ思います。

2. 印象に残っている業務

ここで、私が印象に残っている業務をご紹介します。その業務は、ある事業体の配水基幹管路における漏水補修設計業務でした。当時入社2年目であった私は、主担となる先輩技術者の作業補助をしていました。

(1) 業務に至った経緯

とある事業体で12月中旬に埋設されている基幹管路(φ250mm)が老朽化により突如破断し、広範囲に渡る断水事故が発生しました。早急な事故箇所及び、その前後配管を含めた老朽管の布設替工事が必要でしたが、布設替工事を行うには時間があまりに足りないため、併設されていた予備管路(φ125mm)を利用し、一時的に断水を解消しました。しかし、2～3週間後には水の最大需要期となる年末年始を控えており、配水圧の低下が懸念されました。そのため、年末期間中にも水圧・水量を確実に確保するための方策を立案することが業務の課題でありました。しかし、先述したとおり年末期まで2～3週間しかなく、それが解決方策の立案から実行までに与えられた期間であったため、工事補修等の時間を要する

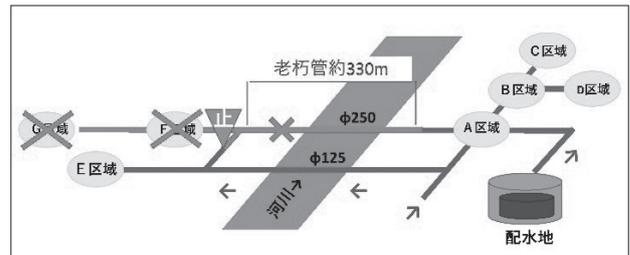


図-1 模式図 漏水事故直後

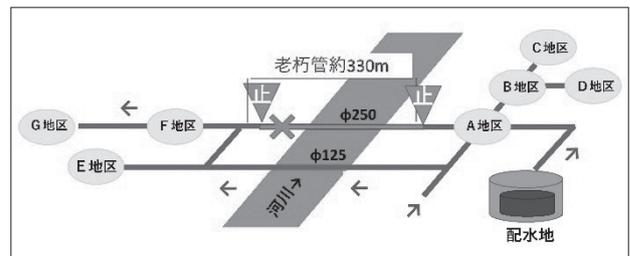


図-2 模式図 一時的対応後

解決手法を採用できないことが技術上の問題となりました。

(2) 現状把握

当該地域は3つの配水区域からなり、配水区域を見直すことによって応急的に水圧・水量を確保するという手法に着目しました。そこで3つの配水区域に対して水力計算を行い、予備管路(φ125mm)の使用状況下でも従前の配水圧を確保できる仮配水区域を検討しました。いくつか配水区域を仮設定し水力計算をした結果、最も配水圧が確保できるパターンでも一部地域において適切な配水圧が確保できませんでした。しかし計算上の理論値と実際とは誤差があることに着目し、配水区域の複数箇所での水圧測定を実施することで、計算値と実測値の差を用いて計算結果を補正し、適切な配水圧を確保できる仮配水区域を提案しました。

(3) 結果

提案した仮設給水区域での運用に切り替えた結果、水の需要が増大する年末期間中は、実際に適正水圧を確保でき、無事問題を解決できました。

3. 私の技術者像

このとき私は、この業務の中で限られた時間、限られた条件の元、迅速に発注者の要求に応え、地域住民の方々の生活を守った技術者の姿に憧れたのです。

“女性技術者”とはなんぞや、という疑問が自分の中にあります。今回女性技術者の紹介ということだったので、何とか女性らしいことを書かなければと頭を捻っていましたが、いまいちでできません。しかし、まだ何となくではありますかなりたい技術者像はあります。私が身に付けた知識や技術で顧客や住民の方々のお役に立ち喜んでもらえるような技術者になりたいと考えています。

4. 私のルーツ

さて、お仕事の話はここまでにして、私のふるさとのお話をさせていただきたいと思います。

私のふるさとは長崎県の壱岐市という人口3万人程度の離島です。場所は朝鮮半島と九州地方に挟まれる位置にあり、遠い昔には中国大陸や朝鮮半島との交流における交通の要所として重要な役割を果たしていた歴史もあります。

さほど大きいとは言えない島ではありますが、住んでいた私も把握しきれないくらい多くの観光スポットや特産品があります。

例えば、スポーツですと釣りの名所が多くありますし、季節イベントとしてトライアスロンや自転車レースも開催されます。特産品では海産物以外にも焼酎の発祥の地であったり、ブランド牛として壱岐牛等もあります。あるいは弥生時代の遺跡群等もと、上げ始めるとキリが無いので、観光名所に絞って出身者としておすすめの名所を3つほどご紹介させていただきます。

①小島神社

島内には150を超える神社があります。古くは日本最古の書物である古事記にも島の名前が出てくるほど、神話と縁のある島であります。そのなかで本神社は名前のとおり小さな島に建てられており、通常は海の中にポツンと浮かんでいますが、潮が引いたときだけ参道が現れ、参拝することができる何とも奇妙な神社です。他ではなかなかないと思いますので、神社巡りをされる方は、訪れ



写真-1 地元の海と友人



写真-2 鬼伝説のご当地マンホール

る神社の候補の一つに入れてみてはいかがでしょうか。

②猿岩

自然が作った絶景その1。島の北西に位置し、岸壁から覗く海の中に突如現れるおよそ45mの巨大な岩の柱があります。海の中から生えるように突き出る大きな岩の柱というだけでもスケール感たっぷりですが、その岩の一部が猿の顔のように見えることから猿岩と呼ばれています。自然によって作られた奇岩は島の観光名所のシンボルにもなっています。また、近くには昭和初期につくられた砲台跡があります。当時、近海を通過する艦船を砲撃するために作られたもので、今は跡地ののみが残る戦争遺産となっておりますが、内部に入ることもできますので、遺跡マニアの方にもおすすめの場所です。

③鬼の足跡

島の自然が作った絶景その2。広い芝生と青い海が見える景色の中にぽっかりと開いた大穴がそれです。波の浸食によってできた周囲110m、深さ20~30m程度の穴は周囲に柵がなく、高所恐怖症の人には恐ろしい以外のなにものでもないです。ちなみに名前の由来は大きな鬼が海を泳ぐ鯨を掬うため、踏ん張ったときにできたという伝説からです。島の各地には鬼に関する伝説に由来する名所が各所にあるので、是非とも巡って触れていただきたいと思います。

個人的なここのお気に入りポイントは、人が少なく、ただ広い芝生とすぐそこに見える海を独り占めできることです。ちなみに食べかけのお弁当を放置してその場を離れると鷲に油揚げならぬ唐揚げなんかをさらわれます。お気をつけて。

5. おわりに

仕事に就いてから、改めてふるさともを見渡すと今まで興味がなかったものに面白さを感じる事ができ、さらにふるさが好きになっていました。私道のアスファルト舗装に貝殻が多く混じっていたのは、今でも印象に残っています。そんなふるさともCOVID-19が猛威を振った結果、観光客が減少し、私のふるさとも長くあったお土産屋さんの一つが閉店してしまいました。少しでも早くこの脅威が過ぎ去り、全国どこでも不安なく行き来ができるようになることを願っています。